

THE ROTARY CLUB OF TSURUOKA



第 70 回 例会

1960年10月25日(雨)

次 会 例 回

11月1日

卓話予定 産婦人科雑話
三井徹君(会員)

出席報告 田中君

本日の出席	会員数	35名	欠席者	佐藤(寅)君 広瀬君 金井(勝)君 五十嵐君 大野君
	出席数	27名		今間君 丸谷君 谷口君
	出席率	77.14%		(津田君 $\frac{21}{10}$ 新庄 RC メーカーアップ)
前回の修正	前回出席率	77.14%	メーカーアップ	酒田 RC に
	修正出席数	6名		金井(国)君 手塚君 鈴木君 津田君 谷口君
	確定出席率	94.28%		田中君

司 会 小花会長 (点鐘) リンダ 手に手つないで
報告及び連絡 小花会長より リーダー小池君

1 会員拡大について

本年度に於いて5人乃至10人の会員拡大を行い度いと思っておりますので、本年度活動計画に添附の会員拡大充填職業分類表に従つて新会員の推薦をお願いします。新会員の推薦は新会員推薦カードによつて行うことになつて居りますが、其の実際の手続については幹事に御照会下さい。

2 事務採用について

当クラブの事務も段々繁雑になつて来ますので、11月1日より女事務員1名採用し、午前中クラブの事務を手伝つて貰うことに致します。

鶴岡ロータリー・クラブ

事務所 { 山形県鶴岡市三日町
鶴岡商工会議所内
(TEL 123・1563)

例会日 火曜日
例会場 ひさごや
(TEL 707)

佐藤（貞）幹事より

1 会報到着 花巻、塩釜、横浜西各 RC

2 東京東 RC より 1959 - 1960 年度の年報が届きました。

職業奉仕委員会（早坂君）より

冊子「職場の憲章」（編者京都 RC、職業奉仕委員会）は有意義な興味あるものなので全会員に配布します。御一読下さい。

会報委員会（三井）

会報の配布がおくれてすみません。印刷担当者にやむを得ない事故がありましたので。

卓 話

SPEAK

最近の電力状勢と将来について

池内方平君

電気が吾国に初めて使用されたのは明治 11 年 3 月 25 日東京虎の門工部大学ホールにて催された電信中央局の開業祝賀会に於てフランス製アーク灯が電池 50 個で点火された。これが吾国最初の電灯点火であつて之を記念日として今日 3 月 25 日は電気記念日となつていのである。

それ以来電気の使用が次第に盛になつて来たので明治 15 年 11 月 1 日に東京電灯会社が創立された。そして翌 16 年 2 月 15 日に東京電灯会社の設立が許可されて居る。之が電灯会社の第 1 号である。然し東京電灯会社が営業を開始したのは明治 21 年 11 月 29 日となつてい。その後東京について神戸、大阪、京都、名古屋、横浜をはじめとする全国重要都市に電気事業を目的とする会社が出来ている。

皆さんと最も縁の深い鶴岡水力電気会社は明治 31 年 6 月 8 日に西田川郡鶴岡町外 9 ヶ村を供給区域として誕生している。そして明治 33 年 9 月 24 日に開業している。

斯の如く吾国の電気事業は今から 70 年以前に其端を発し日清、日露の両戦争を経て日本の軍需産業は著しく発達し第一次世界大戦、大太平洋戦争では兵器の進歩により日本の軍需産業は世界的水準に接近する迄成長したのである。

近代産業の発展に欠くことの出来ない電気の需要も亦著しく大太平洋戦争中の最大年間消費電力量は 315 億 KWH にも達したのである。斯の如く日本の電力需要は過去 55 年間に産業の発展と共に非常なる膨長をしたのである。然し大太平洋戦争に依つて日本の軍需工場の大半は破壊され、又都市と云う都市は大半焼失したので電力の需要は急激に低下し一時は戦時中の最高消費量 315 KWH の約 $\frac{1}{3}$ 100 億 KWH にまで減少したのである。

敗戦によつて一時希望を失つた日本国民も次第に心の落着きを取戻すと共に住宅、工場の復興に努力した結果日に増し世の中が明るさを増すと共に 4~5 年にして日本の復興の速度は著しく早まり殊に最近の発展は世界の驚異的となつてい。

日本の復興と平行して否復興以上の速度を以て増加しつつあるのが電力需要である。終戦後一時的に 100 億 KWH に迄低下した電力需要も昨年 34 年には 725 億 KWH にも達し、昭和 35 年度には、850 億 KWH にも達するであろうと云はれて居る。

斯の如く電力消費量の増加は日本産業の発展を意味し、又国民生活の向上を示すものと考えて良いのである。之からも今迄より以上の比率を以て年々歳々電力需要は増加する傾向にあるので問題

は之を如何なる方法で其需要に応じて増強するかと云うことにあると思ふのであります。

年間の需要増額は約130～150億KWHで之だけの需要を充す為めには一ケ年に250～300万KWの発電所を建設しなければならないと云うことで300万KWの発電所を建設する建設費は水力発電所であれば1KW当り13～15万円を要するので平均を取つて1KW当り14万円として4,200億円を要し、火力発電所であれば1KW当り5～7万円を要するので平均1KW当り6万円として1,800億円を要することになる。

日本の電力政策は数年前までは水主火従と云つて水力発電による電力を主体としピークロードの時、火力発電にて補充すると云う方式であつたが数年前から今迄の政策を水主火従から火主水従に変へて来たのである。そして火力発電所をベースロードに使い、水力発電所で大量の貯水池を持つ発電所をピークロードにのみ使用すると云う方式を採用している。

それは最近の火力発電所の効率が過去(10年以上)のものは20%位であつたものが最近の火力発電所は39%と云う倍に近い効率の向上を来したと云う理由もあり、又日本に於ては今日迄沢山の水力発電所を開発して来たので最早比較的建設費の安い好条件の箇所が大方開発し尽されたと云うこと、最近の電力の需要増加のテンポが余りに早く大きくなつたので建設費が高く、建設期間の長い水力発電所より建設費が安く、建設期間の短い火力発電所を増加する方が好都合であるとする理由によるものである。

現在日本の発電設備の総出力は水力、火力合計して1,500万KW位である。目下建設に着手中のものが水力、火力合計で500万KW位であるが、最近の需要増加のテンポを以てすれば此500万KWでは間に合わないの政府は更に500万KWの建設に着工する様計画を変更する模様である。斯の如く電力の需要増加は膨大なる発電所の建設を進めなくてはならないが、それには又膨大なる資金を調達しなくてはならない処に政府並に九電力会社の悩みの種があるのである。少くとも昭和36年度だけで、3,500億円の資金を調達しなければ電力の自然増を飼うことは出来ないであろう。茲に日本産業の発展と云う明るい一面に対して大きな悩みが伏在して居るのである。

それに就いて電力料金の問題にも少々ふれて見ることにする。日本の電気料金は安いか高いかと云うことであるが、ことに日本銀行統計局経済月報(35-2現在)によつて見ると電気料金は割安であることがわかる。

公益事業値上率表(昭和8年基準)

商業新聞	409倍
郵便ハガキ	333
ガス(45立方米)	276
電車	186
水道(15立方米)	156
鉄道(旅客1Km)	154
バス(1区)	150
小口電力	115
ラジオ	113
従量電灯	75

日本の電気料金と外国の電気料金とを比較して見ると日本が一番安いこともわかる。

日	本	5.14 ^円	(1 KWH 当販売単価)
ア	メ	5.90	
イ	ギ	6.14	
フ	ラ	7.82	
西	ド	8.29	

以上を見ても日本の電気料金は外国に比較しても、亦国内公益事業値上り率より見ても安いと云うことが出来る。

日本の九電力会社の経理状態は余り良くない固定資産の償却を完全にやつている会社は関西電力一社位で他は充分なる償却をして居ないこと、経理上苦しい為建設資金の調達も困難を来たして居る状態である。此状態を改善する為には電力会社の利益を増し、償却を充分にし、又配当も12%以上に引上げ増資を容易にすること、膨大なる借入金の利子負担にも耐へ、尚且つ借入金の返済も可能にする外に道はないと思う。それには何と云つても電気料金の値上げをやる以外に方法はないものと思う。

現在九電力会社は1~2社以外は大方電気料金の値上げを計画中で、九州電力の如きは既に通産省へ申請中である。

池田内閣は10ヶ年国民所得倍增計画を発表し、愈来年から実施に移さんとして居る。日本産業は10ヶ年計画に従つて年々9%以上の発展を続けるであろうが、それに平行して電力需要は増加を続けるであろう。そして電気料金も亦物価の値上率(310)に接近するかの如く上つて行くであろうが国民所得が倍增するので左程の重荷にはならないであろうと思うのである。

最後に原子力発電の事に少しふれて置くが、吾国の原子力発電は茨城県東海村に50 KWの試験炉が3ヶ年程前に据えられ、現在運転中である。又今年中にアメリカから輸入した10,000 KWの大形試験炉が完成する。そして昭和40年迄にはイギリスのコールダーホール型動力炉(120,000 KW)が完成することになつて居るが、50 KWも10,000 KWも原子力炉の種々の問題例へば、放射能障害対策、運転技術者養成の問題、発電原価の問題、その他幾多の技術上の問題を研究する目的で建設中で、本格的商業用としての動力炉の建設は昭和55年迄に500~800万 KWの動力炉を建設する長期計画を建てた模様である。現在の処日本だけでなく、世界各国も茲数年程原子力炉の建設に積極的ではないのである。それは最近の重油を燃料とする火力発電所の電力原価が比較的安いので現在の原子力発電では重油発電に未だ大刀打ち出来ないと云う処に原因がある様である然し、原子力発電も進歩を続けているので将来は当然原子力発電の時代が来ることは疑う余地はないと信ずるものである。

其の他エネルギー源として地熱発電、ガス発電等があるが、之らは比較小規模で将来としても大した発展は期待出来ないので省略して話を終ります。御静聴を感謝致します

(池内方平)

35.10.25

SMILEBOX

(ニコニコ)

池内君, 社屋落成記念 張君, 来週欠席の為, 菅原君, 小池君, 長谷川君, パ
ツチ忘れて 「職場憲章」を頂いたので。
金井(国)君, 小花君, 鷺田君, クラブ運営費, 献金
三井君, 三子皆健康優良児になつた記念

本日の献立

鯛, 赤えび } 刺身 豚肉 } 甘煮 蕪減漬 舞茸 } みそ汁 御飯
まぐろ } さや隠元 } とうふ }



個人に対する強調

米国テキサス州ロールズ出身の国際ロータリー会長 J・エド・マクラウリン氏より貴クラブ会長は今年度は我々の凡べてがロータリーの理想と綱領を理解する上に、我々の日常の生活にあつて、“超我の奉仕”の意義を探求する様要望する旨の通信を受領しておられます。

マクラウリン会長は我々がロータリーの真の意義を次の方法によつてその行動に表現する事を示唆しております。即ち、

ロータリーの諸原則を我々の商売や職業の基本的な方針及び日常の諸問題にあてはめる事、

我々クラブの各会員の個人的奉仕を動員する方法を通じて我々の地域社会の最も緊急な問題に挑戦する事

他国の人達の問題や願望に就てよく理解された与論を喚起する為め各自がロータリーの持つ独特の手法と連繋を活用する事。人類の尊厳と働く事の權威を強調して、我々の奉仕の理念を従業員、競争相手、依頼者、顧客及び仲間に迄浸透せしむる事。体育施設や文化機関を十分ならしめ地域社会の老若を問わず人の役に立ちたいと云う我々の運動範囲を拡大して行く事

そしてロータリーを日常茶飯事に止めず、その解答や解決が全人類の平和をもたらす懸案や問題に迄ロータリーを適用する事。